



ALPA Japan NEWS

日乗連ニュース

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

ATS 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田 5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2016.2.12

No. 39-28

Cross Border Arrival Management (XMAN)

1. ロンドン・ヒースロー空港の Holding 時間短縮

長距離便の発着するロンドン・ヒースロー空港はヨーロッパの 5 大空港の 1 つです。イギリスに主体を置く航空管制業務会社 NATS (National Air Traffic Control Services) は、2014 年 4 月より隣接空域の管制機関の協力を得て、ヒースロー空港到着で、出来るだけ連続的に降下し、Holding 時間を短縮する試験運用を始めました。その成果は、年間で 8,000 トンの CO2 削減、165 万英ポンド (2.88 億円) の燃料費削減と待機空域直下の騒音軽減と評価されています。

2. 以前の交通処理状況

ヨーロッパは国の数が多く個々の空域が大きいいため、大部分のヒースロー到着機が英国の管制化に入るのは (到着経路で) 80nm と短い距離でした。このため到着機を捌く時間が限られるためヒースローの東北東 25nm にある Lambourne VOR などで Holding に入れ、そこを出るタイミングとレーダーベクターで間隔を調節していました。

3. ヒースローより 350 nm から速度調節

空港近くになってから Holding に入れる代わりに、アイルランド、フランス、オランダの協力を得て、基本的にはヒースローの半径 350 nm の範囲内で、必要が認められれば、速度調節が行われています。この速度調節を Cross Border Arrival Management (XMAN) と名付けており、昨年 12 月に全面実運用に入ったと発表されています。2016 年 9 月にアイルランド航空局 (IAA : Irish Aviation Authority) に関して、関連管制機関のデータ交換がコンピューター化される時点で正式運用となります。

4. 実際の運用は

ロンドンに飛ぶパイロットは、今までは速度調節が行われることが少なかった隣接空域において、Mach で 0.02、少し降下して IAS 領域に入ると 20 knot 程度の減速指示が出るようになったと認識しています。この速度調節を厳密に守っても Holding の指示が出されることもあります。平均として Holding 時間が 1 分短くなっているようで、前記の排出 CO2 削減および燃料節約になります。着陸の順番は速度調節の始まる時点で決まっている模様ですので、指示に忠実に従うのがパイロットとしての良策と思われます。

(次頁へ続く)



5. 他のヨーロッパ主要空港にも順次導入

XMANはSingle European Skyの基本概念ではExtended Arrival Managementと分類されており、2024年までにはヨーロッパ主要24空港について施行される計画となっています。



<http://www.nats.aero/newsbrief/cross-border-arrival-management-xman-trial/>
<http://www.nats.aero/wp-content/uploads/2015/12/XMAN.png>

(以上)